

新しい公共支援事業の成果等報告  
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

## 1. 成果等報告

モデル事業名	外国籍児童生徒の放課後学習支援事業
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	特定非営利活動法人 愛伝舎
実施期間	平成23年9月26日 ~ 平成24年3月31日
支援額 (注釈参照)	3,003,000円 人件費 2,122,116円 謝金 103,000円 書籍 15,245円 旅費 106,254円 通信費 55,937円 会場費 160,000円 消耗品費 23,713円 その他 416,735円
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	運営委員会:各学期末(10月、12月、3月実施) メンバー:県(国際室、男女共同参画・NPO室)、アポーヨミエ、三重大学、支援者、特定非営利活動法人愛伝舎 支援者会議:月1回(1月、2月、3月実施) 支援者による学習支援:週2回および定期試験前1週間(11月中旬より実施) 研修参加:適宜
事業概要	公立小中学校、高校に通学する外国籍児童生徒を対象として、学習言語の獲得を目標とする学習支援を行う。問題文章の論理的な展開を理解できるようにし、類似する語彙を使い分けられる運用力をつけていく。中高生には進学できる学力をつけることを目標にする。
事業内容	外国籍小中学生に週2回、および中学生はそれに加えて定期試験前1週間毎日の学習支援。現在2人の支援者とコーディネーターが支援者会議を通して子どもに関する共通理解と支援方法の改善を図り、支援に一貫性を持たせている。 また、津市のブラジル人学校アポーヨミエの学童預りの児童に週1回学習支援を行っている。こちらは複数学年構成の一斉授業なので、算数のベースとなる九九を中心にして教科特有の日本語表現を学び、運用できる力を育てるとともに概念を学んでいくことを目指している。 これらの学習、支援内容を運営委員会において取り上げ、各マルチステークホルダーの視点からサポートしていただいている。

<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>●中3HC：これまで学校外での学習経験なし。内申を上げるために2学期末試験では数学を重点学習（来塾前平均7点→2学期末27点）、冬休みからは受験科目に特化して英語を学習。2学期の担任面談で入試突破は難しいと言われていた志望校の合格を勝ち取った。</p> <p>●小3TR：公文式学習の経験あり。九九の完成と1年生の漢字の学び直し。学年相応の漢字については書けないため、学年を下げた余裕を持って取り組める内容から始めている。余裕から自信が生まれ、学習意欲が湧いて積極的に取り組むようになった。また、それに伴って学習規律も身につけ始めている。</p> <p>●アポーヨミエ：6～9名の複式編成の一斉学習。教科特有の日本語の言い回しを学習して語彙や文章に対する意識が向上し、問題に対して適切な立式に繋がっている。</p> <p>つまづきを理解した的確な学習支援によって、短期間でそれぞれの児童生徒の成長は著しい。大きく成果が上がったといえよう。</p> <p>しかし、体制を整え熱心に支援しても、事前リサーチで10名いた希望者が事業開始時に0名になったり、自動車を買ったからと辞めたり、月謝が払えないと言いながら携帯を買い与えたり、約束をすっぽかしたり、など予測できない日常の困難が多々あった。保護者の教育観やライフスタイルが子どもに与える影響は大きく、生活規律面での乱れがもたらす支援効果の低さに支援側のジレンマがある。自分の将来を広げるために今なにが必要かということシャワーのようにインプットする必要がある。</p> <p>今後、中学生に対しては保護者の生活感覚と日本の教育観とのズレを子ども自身に意識させることで社会人に必要なマナーや技能を習得させていくことが重要であり、総合的な支援活動として取り組みたい。</p>
<p>評価ラ ンク</p>	<p>□S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた □B：一定の成果が得られた □C：限定的であるが成果が得られた □D：成果が得られなかった (該当する評価に□を付けてください。)</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

## 2. 添付書類

その他参考となる書類 ※ 都道府県において適宜設定すること。